

第 33 回 篠原記念賞および同奨励賞

(目的) 故篠原隆政氏の業績を記念し、給排水衛生設備に関する技術の研究、開発または普及に、特に優れた業績を挙げた会員に対し、篠原記念賞を贈って表彰するものである。

また、給排水衛生分野を専攻し、将来の活動が期待できる博士修了学生あるいは修士修了学生、または社会人として現在同分野で活動し、今後もさらなる活躍が期待できる会員に対し、篠原記念賞奨励賞を贈って表彰するものである。

1. 篠原記念賞(1名)

受賞者	光永 威彦 (明治大学 理工学部建築学科)
推薦理由	<p>光永威彦君は、建築設備設計の実務に長きにわたり従事した経験を有し、その経験に基づく学術的な着眼や着想は余人をもって代えがたいことは、これまでの委員会や大会等での活躍をみれば明らかである。また、彼を中心とした研究活動により得られる成果は、今後の給水設備設計に対して多大に貢献するものであり、給排水衛生設備分野に係る研究者や実務者の見本となり、若手技術者の育成にも十分な貢献が期待されることから、篠原記念賞に値するものと認める。</p> <p>以下、彼の推薦に資すると判断した業績について列記する。</p> <p>① 本学会における委員会活動として、2023 年度現在のみで、給排水衛生設備委員会（幹事）、給水給湯設備のデータ整備小委員会（主査）、特別委員会建物別給水原単位検討委員会（幹事）、など計 13 委員会において活動し、給排水衛生設備分野を中心に学会の発展に寄与しており、その貢献は多大である。</p> <p>② 給排水衛生設備分野のプレゼンス向上への貢献として、令和 5 年度本学会大会（福井）、令和 4 年度 SHASE-S206-2019 若手技術者向けセミナー、令和 3 年度 SHASE-S206-2019 改定説明会、令和 2 年度シンポジウムなどの幹事やとりまとめ役として各イベントの運営および講演を行っている。</p> <p>③ 研究活動等の成果発表については、本学会論文集で「給水器具の流水時最低必要圧力に関する提案」、「建物用途ごとの新しい単位給水量の提案」、「サイホン排水システムに関する研究」などの代表執筆者として 6 報を報告、また他 2 報を報告しており、上記の新しい単位給水量の提案に関しては、その重要性を鑑みて、特別委員会建物別給水原単位検討委員会で学会提言へ向けて審議されており、実務設計者から高い要望を得ている。</p> <p>④ 実務設備設計者としては、機械設備設計及び監理をおこなった「長崎市庁舎」（協働（笹島亮、鷹箸寿昭、大塚直、市川卓也、光永威彦、ほか 14 名）、掲載誌：新建築 2023 年 4 月号）では、延べ床面積 5 万 m² 超の大規模庁舎建築で、ZEB Ready（設計値）を達成しており、学術分野以外に実務設計者としても、建築設備および ZEB 化促進に寄与している。</p> <p>⑤ 他学会での活動として、日本建築学会環境工学委員会傘下の拡張排水システム小委員会（幹事）で発行した「建築を変える 拡張排水システムの設計法」では、サイホン排水システムに関して執筆。給排水設備研究会では学術委員会副委員長、日本建築センターでは 2022 年度より「技術セミナー設備設計シリーズ／給排水設備編」講師、日本建築衛生管理教育センターでは「厚生労働大臣登録建築物環境衛生管理技術者講習会」教授ほか多数の委員会において活躍している。</p>

2. 篠原記念賞奨励賞（4名）

受賞者 主な業績	板橋 芽美（関東学院大学大学院） 修士論文 「感染症対策のための各種水栓を用いた節水かつ衛生性を考慮した手指洗浄手法の提案- Proposals for water-saving and hygienic handwashing methods」
受賞者 主な業績	井野 勇斗（関東学院大学大学院） 修士論文 「介護施設等に設置する紙オムツ破砕処理排水立て管システムの性能評価及び設計手法の提案」
受賞者 主な業績	大八木 潤（工学院大学大学院） 修士論文 「建築物における水収支と環境性能評価に関する研究」
受賞者 主な業績	金子 昇太（関東学院大学大学院） 修士論文 「実住戸排水横管モデルにおける器具排水特性と汚物搬送性能の多角的な推定手法の提案」